

西原観音堂

西原観音堂は、有田川町にある長い歴史を持つ仏教寺院である。

慈悲の観音菩薩を本尊としている。本尊は千手観音像で、困っているすべての人に手を差し伸べるという観音様の意思を表している。千手観音像は、祭礼の日に公開される。内部には、支柱の梁の一本に舟に乗った観音様の彫刻が施されており、これは観音様としては特に珍しい描写である。

地元の伝説によると、この観音像には奇跡的な由来があるという。かつて有田川町の西原地区にとっても大きな杉の木があった。ある日、地元の人たちがその杉の木のてっぺんに明るい光が差し込んでいるのに気づいた。調べてみると、それは観音像であることがわかり、西原極楽寺に安置された。観音像は本堂が焼失するまでそこに安置された。観音像は炎を免れ、1723年に現在の西原観音堂が建てられ、その像が安置された。

寺の裏手には、仏像や五輪塔を含む宗教的な石造物のコレクションがある。これらの遺物は、元々あった場所が開発されることになり、他の寺院からここに移された。最も古いものには1432年の銘がある。

西原観音堂の主な祭りは、旧暦の3月3日で、現在は一般的に4月にあたる。餅まきが行われ、大勢の人々が台から投げられた餅を縁起物として取り合う。